

## 音声通話以外の緊急通報の仕方を学ぶ

市では耳の聞こえない人（聴覚障害者）など、音声による110番・119番通報が困難な方が、スマートフォンを使って緊急通報が可能になる「110番アプリシステム」および「ネット119緊急通報システム」の講習会を開催しました。

これらの仕組みは、県警察本部および市消防本部が提供しているもので、音声電話による通報ができない方に限り、スマートフォンの画面にタッチや文字入力することで緊急通報が可能になります。

この日、聴覚障害者や家族、支援者など約20人が参加し、警察官や消防署員たちを講師に迎え、アプリのダウンロード方法や使い方を教わりました。

参加した平田由美子さんは「スマホは得意ではないが、分かりやすく説明してもらったのでよく理解できた。少しずつ練習して何かあったときのために備えたい」と話しました。



実際に110番アプリをインストールする参加者

## 楽しく学習し交流を広げる 長寿大学開講



葛西学長から学生証を受け取る小山内運営委員長

この日、長寿大学の開講式が行われました。式では、学長を務める葛西教育長が各地区の代表者に学生証を手渡した後、121人の学生を代表して小山内兼一運営委員長が「長寿大学はこれまで多くの高齢者の生涯学習の場として活用されてきました。皆で楽しく交流の輪を広げ、親睦を深め、仲間づくりが進められることを楽しみにしています」とあいさつしました。

式終了後の第1回学習会では、映画「けの汁」を鑑賞し、市フィルムコミッション川嶋大史事務局長が「映画による地域づくり」と題して講演。参加者は熱心に聞き入っている様子でした。

長寿大学は5月から11月まで月1回、災害時の対処方法や運動、縄文など、豊富な内容をテーマに開催されます。

## 国際ふれあい事業 異文化に触れあう園児たち

国際交流員のオリビア・スナイダーさんが、園児たちに交流を通じて異文化に触れてもらおうと、国際ふれあい事業を実施しました。

この日、かしわあつぷるこども園を訪れたスナイダーさん。自己紹介で米国の実家や好きな食べ物などの写真を見せると園児たちは興味津々の様子。「はらぺこあおむし」を題材にした工作では、園児たちは作り方を教わりながら、集中して作品を仕上げていました。

参加した元気いっぱいの園児たちは「あおむしを作って楽しかった」、「ストロベリーやオレンジの英語を覚えた」とうれしげに話しました。

スナイダーさんは「子どもと触れ合うのが大好き。子どもたちの反応を見ながら、より分かりやすく、スムーズにできるように工夫している。たくさん子どもたちに楽しんでもらいたい」と話しました。

国際ふれあい事業は、希望する保育園などを対象に秋にも実施を予定しています。



スナイダーさんから「はらぺこあおむし」の作り方を教わる園児たち

## ALTと一緒に絵本を通じて英語を楽しむ

5/28 市立図書館



パンティンさん(左端)とロトロさんの読み聞かせに熱心に耳を傾ける参加者たち

市内の小中学校で英語学習を指導している外国語指導助手(ALT)たちが、絵本を通じて英語を楽しんでほしいと、市立図書館で毎月1回「えいごでおはなし会」を開催しています。

この日は、マリア・パンティンさんとコーリー・ロトロさんが講師を務め、集まった13人の親子連れに英語で絵本の読み聞かせを行いました。参加した子どもたちはALTたちと一緒に「グッドモーニング」や「ヘッジホッグ(ハリネズミ)」などの英単語の発音にもチャレンジ。

お母さんと一緒に参加した上野咲菜さんは「楽しかった。絵本が好きになった」と感想を話しました。

パンティンさんは「親も一緒に簡単な英語を覚えて、おうちで子どもと練習できるようになってくれるとうれしい」と期待を込めて話しました。

## SDGs推進に関するパートナーシップ協定を締結

SDGs(エスディーゼーズ)は貧困や飢餓をなくすことなどを掲げる持続可能な17の開発目標のことです。市では第2次市総合計画後期基本計画のなかに、主要施策の具体的な取り組みをSDGsと関連付けて策定。17の開発目標を2030年までに達成できるよう課題の解決に向けて行動しています。

この日、市と(株)青森テレビ(小山内悟代表取締役社長)は「SDGs推進に関するパートナーシップ協定」を締結。本協定をもとに、地域の取り組み状況を情報発信し、全体的に理解を深め、持続可能な地域づくりの機運を高めていきます。

協定締結式では倉光市長が「行政だけで17の目標を達成することは大変困難。市民と行政が一体となってどう取り組んでいくかが課題。まずは自分たちでできることから進めていきたい」と話しました。



協定書にサインし握手を交わす小山内社長と倉光市長

## ベンセ湿原を訪れる人々のために一汗

5/31 ベンセ湿原



手慣れた手つきで草を刈る老人クラブの会員たち

つがる市老人クラブ連合会木造地区老人クラブ(中村邦臣会長)が、ボランティア活動の一環として、ベンセ湿原駐車場の道路脇などの草刈り、側溝の泥上げ、ごみ拾いを実施しました。

この日は雨が降り続き、視界が悪い状況でしたが、会員たちは丁寧に作業していました。

中村会長は「ニッコウキスゲが見頃を迎える前に、ベンセ湿原の駐車場の道路脇などをきれいにできてよかった。来る人に喜んでもらえたらうれしい」と笑顔。生涯現役の元気な老人クラブの会員たちが環境美化と訪れる人々のために汗を流していました。

## きづくり保育園 花の日に“ありがとう”を伝える

きづくり保育園（佐藤肇園長）の園児たちが、日ごろお世話になっている方々に感謝を伝えようと、市役所などに手作りのフラワーアレンジメントとメッセージボードを贈りました。これはキリスト教の風習の一つである6月第2日曜日「花の日」にちなんで毎年行っているものです。

この日、園児を代表して中澤優那さん、米谷柚璃くん、伊藤魁利くん、三浦悠翔くんの4人が市役所を訪れ「いつも私たちのために働いてくださってありがとうございます」と市職員たちに手作りのフラワーアレンジメントなどを手渡しました。

園児たちは「ありがとうの気持ちを伝えられてよかった。メッセージボードは折り紙を折るのが難しかったけど上手にできた」と話しました。

きづくり保育園では、教育委員会、郵便局、警察署、消防署へも訪問しました。



6/1 市役所

市職員にお花とメッセージボードを贈る園児たち

## 車力小 田植え体験



6/3 豊富町地区

泥に足を取られながらも苗を植えて進む児童たち

車力小学校（佐々木康栄校長）の5年生25人が、豊富町会（松橋正儀会長）の協力のもと、総合的な学習の時間に田植え体験を行いました。

田植えの前に松橋会長が「田植えは米作りの第一歩。この苗が4カ月後には立派な稲に育つ。今日は機械が無い時代の田植えを体験してほしい」とあいさつ。

ぬかるむ田んぼに裸足で入った児童たちは、初めての感触に驚きの声を上げていました。それでも、地域の方々の手ほどきを受けながら、6アールの田んぼに「まっしぐら」の苗を手作業で植えて進みました。

田植えを終えた會津妃南乃さんは「深く苗を植えるのが難しかった。大きく育ててほしい。秋の収穫が楽しみ」と感想を話しました。

## バスツアーでベンセ湿原や縄文遺跡などを巡る

市観光物産協会（川嶋大史会長）主催の「初夏のベンセ湿原と世界遺産ツアー」が6月1日から6月10日まで行われ、県内外から参加した観光客がバスに乗車して市内の名所を巡りました。

この日、参加者たちは、ボランティアガイドの花岡トキさんに案内してもらいながら、縄文住居展示資料館カルコやベンセ湿原、千本鳥居で有名な高山稲荷神社、世界文化遺産となった亀ヶ岡石器時代遺跡などを見学。初夏の爽やかな空気の中、この時期ならではの景色を楽しんだり、縄文文化への理解を深めたりしていました。

ちょうどニッコウキスゲが見頃を迎えたベンセ湿原は、例年よりも花数が少ない印象でしたが、弘前市から参加した武田みちよさんは「バスツアーに参加するのは今回で3回目。ガイドさんが丁寧に説明してくれたので楽しく過ごすことができました」と満足した様子でした。



6/9 ベンセ湿原

花岡さんに案内してもらいながら散策する参加者たち

## 目玉商品がずらり！商店街で朝市が始まる

6/12 街の駅あるびょん周辺



朝の清々しい空気の中、毎年恒例の「朝市」がスタートしました。この日は、本マグロ解体販売、しじみ貝すくいどり、じゃがいもすいとん汁の無料振る舞いなど内容盛りだくさん。新鮮な魚介や野菜、にんにく塩こうじで味付けしたから揚げ、バターロールケーキなどのスイーツが販売され、買い物客たちでにぎわい、すぐに完売となる商品もありました。

初回のこの日は、オープニングセレモニーが行われ、倉光市長が「今年は新型コロナウイルスの感染防止対策を講じて、まつりやイベントを開催し、にぎわいを取り戻す方向に舵を切っていく。今日もたくさんの商品が並んでいる。たくさん買って市の経済を回していきましょう」とあいさつ。

朝市は、この日も含め10月まで計5回開催されます。早起きは三文の徳。お得がいっぱいの朝市に出かけてみてはいかがでしょうか。

- ①お目当ての商品を求める人たち
- ②解体されたマグロは、さくやマグロ丼で販売
- ③食欲をそそる揚げたてのから揚げ
- ④⑤だしが香るすいとん汁は行列ができるほど大人気。倉光市長も大絶賛。

朝市開催予定日：8月7日(日)、9月11日(日)、10月9日(日)6時30分～8時  
場所：旧つがる警察署～旧青い森信用金庫の区間

## 父の日キャンペーン 市連合婦人会がお花を贈る

6/17 市役所



倉光市長と今副市長にお花を手渡した市連合婦人会の皆さん

6月19日の父の日を前に、つがる市連合婦人会（尾野洋子会長）が、倉光市長と今副市長を表敬訪問し、お花を贈りました。この取り組みは、市内の父親を代表して市長たちに感謝と慰労の意を伝えようと毎年行われています。

倉光市長は「毎年ありがとうございます。皆さんの世代が元気でないとつがる市は元気にならないので、一緒にがんばっていきましょう」と感謝。尾野会長は「私たちもできる範囲で市に協力していきたい」と話しました。

市連合婦人会では、女性の地位向上や安全安心なまちづくり、明るい社会のために地域活動に取り組んでいます。その一環として、今年もベンセ湿原のニッコウキスゲが見頃の時期に休息所を運営し、訪れた方々にお茶の提供などを行いました。